

民生福祉常任委員会会議記録

- 1 日 時 令和7年11月11日(火) 午後1時31分から午後3時23分まで
- 2 場 所 第2委員会室
- 3 出席委員 星野委員長、大東副委員長、今成、山宮、高柳、野村 各委員
- 4 傍聴者 なし
- 5 説明者 根岸市民部長、桒原環境課長
北澤健康福祉部長、安原社会福祉課長、阿部こども課長、鈴木健康課長
- 6 事務局 武井事務局長、生方議事係長
- 7 議 事
 - (1) 健康福祉部各課の所管事項報告・調査事項説明
 - (2) 市民部各課の所管事項報告・調査事項説明
 - (3) 市民部及び健康福祉部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換
 - (4) 今後の日程について
 - (5) その他
- 8 会議の概要
 - (1) 健康福祉部各課の所管事項報告・調査事項説明

○委員長 それでは、次第(1)健康福祉部各課の所管事項報告・調査事項説明を行う。
社会福祉課の所管に係る事項について説明願う。社会福祉課長。
(安原社会福祉課長 説明)

ア 社会福祉課

・調査事項

- 1 沼田市の障害福祉施設の状況について
 - 2 (株) ありがとうファームの事業で沼田市に活かせる内容について
 - 3 人口を維持するという観点から、人口減少対策としての自殺予防について
- 【人口減少対策】

○社会福祉課長 調査事項1「沼田市の障害福祉施設の状況について」御説明申し上げる。
資料の2ページを御覧いただきたい。沼田市内の就労系の障害福祉サービス事業所の一覧である。まずは就労継続B型事業所である。こちらには7つ記載をさせていただいたが、一番上の工房あおぞらと下から3番目の福祉カフェ i p p o は同じ事業所となっている。工房あおぞらの従たる事業所ということでテラスの1階にある福祉カフェ i p p o がB型の事業所として運営がされている状況である。現在6つの事業所で定員はそれぞれそちらに書いてあるとおりの人数になっている。次が地域活動支援センター、福祉作業所と言っているものであるが市内には3か所あるが、まずテラスの1階にある、あおぞら作業所、白沢コミュニティーセンター敷地のところにある沼田市白沢福祉作業所、それから保健福

社センターの中にある沼田市福祉作業所の3事業所が地域活動支援センターということで設置をされている。その下の生活介護事業所については、完全な就労系ということではないが、作業内容の中で、生産活動等も行っており工賃が発生しているところもあるので参考に載せさせていただいた。こちらについては3か所の事業所がある。その他、この就労に関連しては、相談機関ということで相談できる事業所が4か所、それから障害者の方が自立をするために入っているグループホーム、こちらにも沼田市内には4か所という形になっている。この中で、先日、行政調査で視察した岡山のありがとうファームに近いような内容をやっているのは、久仁会が行っているソナタリューの中での事業になろうかと思うが、まずはB型事業所がみんなのジョブセンター、それから生活介護事業所がケンケンクラブで独自にみんなのための障がい支援センターという相談機関も設けており、さらにはグループホームV i v a V i v oという施設が同じグループの中で運営をされている。こちらが、住まいから就労支援までを一つの事業所でやれるような体制となっている。基本的にはどこも同じような内容ではあるが、各事業所で何か所か同じグループの中で持っていてそれぞれ特色を出して利用者の利用しやすい環境を整えている状況である。1番目の説明は以上である。

次に2番目の株式会社ありがとうファームの事業で沼田市に活かせる内容ということであるが、行政調査に随行させていただき、ありがとうファームの取組は見させていただいた。1事業所で、やはり住まいから一般就労までを行っているということで大変素晴らしい取組であるということは感じている。行政でそれがどう生かせるのかということになると、一つの株式会社の事業であるので、直接ということはないかとは思いますが、その企業理念である、知ることは障害をなくすという言葉が私は一番印象に残っていて、今市でも障害に関する周知や啓発に力を入れており、そういうことがやはりこの共生社会を作っていく上では重要だというふうに感じたところである。

次に3番目の今の人口を維持するという観点から、人口減少対策としての自殺予防についてということであるが、資料の3ページと4ページを御覧いただきたい。まず自殺の推計ということで、3ページの一番上にグラフを載せてあるが2009年のところがピークで、そこからは多少の上下はあるが、減少傾向となっている。この2009年が多いのは、前年2008年がリーマンショックの年であるので、恐らく経済的な理由から自殺者数が増えているのではというふうには感じている。その後下がって2018年のときにはかなり下がっては来たが、翌2019年にまた少し戻ってしまったという状況である。こちらは特に何というのはないのだが、世界の経済成長率がリーマンショック以来の低水準だったということでこちらも経済的な理由によるところが大きいというふうには感じている。その後は横ばいな形で続いているが、2020年がコロナの関係で経済活動が停滞していたということでそこから数年は経済的な問題、それからコロナに罹患された方などが地域でいづらくなるような状況であるとかそういうこともあったのではという感じは受けているが、横ばいで来てコロナ渦を過ぎた後についてはまた少し経済活動も活発になってきたので、減少傾向になってきているのではというふうには感じている。自殺者数ということで真ん中の段の表になるが、2019年、これが令和元年になるが総数で14人、そこから11、13、11、8人とほぼ横ばいの状況で推移している。性別で言うと男性が圧倒的に多い状況であり、男性は年代で言うと40代、50代というところが比較的人数が多いところとなっており、逆に女性に関しては高

齢の部分ということで70代、80代というところが多いということになっている。一番下は参考までに、市の人口、2019年からのものをつけているが沼田市の人口もどんどん減ってきているような状況である。資料の4ページを御覧いただきたい。こちらが自殺の原因、動機別ということである。2019年の14人のうち一番多かったのは、健康問題、続いて、経済・生活問題となっており、各年、健康問題に関係している理由というのが一番多くなっている。こちらの表は、1人の方に対して4つまで原因を選べる統計になっているので、自殺者数の合計と、動機別の合計とが一致していない状況であるが、健康問題、経済・生活問題、あとは家庭問題といった複合的な理由で自ら命を絶つ方が多いというような結果である。

以上で説明を終わる。

○委員長 説明が終わった。

報告事項1「沼田市の障害福祉施設の状況について」質疑を行う。質疑はあるか。副委員長。

○副委員長 丁寧な資料をいただいてありがたい。例えば就労B型が定員とか、地域活動支援センターの定員が記載されているが、実際利用者は大体この定員一杯くらいで推移をしているのか。年間通じても増えたり減ったりすることは多分あるのではないかと思うが、大体どこの施設も、ほぼ定員並みの利用者がいるという理解でよろしいのかどうか。分かる範囲で教えていただければと思う。

○社会福祉課長 正確な数字というのは今資料がないが、事業所によっては一応定員を満たしているところもあるが、やはり中には定員割れをしているところもある。先ほど説明した工房あおぞらと福祉カフェ i p p o で今定員10名と10名という形になっているが、元々は工房あおぞらが定員20名、福祉カフェ i p p o で定員を10名くらいで考えていたがやはり利用者が少ないということで、あおぞらの本体を、定員20名から10名に下げてトータルで20名という定員を定めている状況であり、やはり実際には利用者が少なくなってきたというような状況だと思う。

○副委員長 分かった。

○委員長 ほかに。高柳委員。

○高柳委員 働く場所と住む場所が一体であると障害をお持ちの人は、そのハンディを克服しやすいという点ではいくつかはあるものの、なかなかそういったところが見つからないというのが現状だと思っている。そういったところに着目をしたサービスを提供している事業者があるかないかということと、市ではそんなところを検討しているという経過があるかどうか伺いたい。

○社会福祉課長 住む場所と利用する事業所がセットになっているところであるが、グループホーム4か所あるが、こちらでは大体そのグループホームとB型事業所であったり、地域活動支援センターとか同じグループでやって住んでいるところからすぐに働き、支援してもらえるような体制というのは沼田市ではできている状況である。行政としては特にその部分については検討はしていないということである。

○高柳委員 障害者福祉の課題である工賃を上げていく、働くところに言うとそれに向けた努力はそれぞれの施設等で行っていると思うが、市としてはそれを手助けするようなこ

と、何か検討された経過なり今検討していることがあれば伺いたい。

○社会福祉課長 市として工賃を上げる検討ということであるが、この工賃、いろいろと議会でも御質問いただいているのでいろいろと調べてみたり各事業所に状況を伺いはしているところであるが、上がれば本当にいいとは思いますが事業所の社員というか人手不足だということがあり、いろいろな仕事を持てきたいというのはあるが、みんながみんなそれに対応できるわけではなく、マンツーマンでつかなければならなかったり、そういうこともあって全体的には本当に人手不足だということ増やせないというような状況もある。利用者さん自体も事業所によってだとは思いますが、そんなに工賃を上げることに希望がなく、また親御さんも今の現状で十分だというような御意見のところも結構あり、必ずしも工賃を上げるということが本当にその利用者にとって幸せなことかというところとちょっと違うような。沼田市としてはそのような状況である。

○高柳委員 利用者本位で言うと、工賃を上げるよりもいて居心地がいいというか、そういうことを重視するほうが現実的だと思っている。ただ、親亡き後を想定すると多分親の年金や財産などと合わせれば無理をすることはないと、一般的には障害をお持ちの方のほうが先に亡くなっていくという今までのケースからすると、そんなに将来を悲観してないが、最近の傾向であると障害をお持ちの方も医療が進んできて長生きをし、親亡き後というのが現実的になると障害者年金だけではかなり厳しいということが近い将来、傾向としては起こりうるのではないかというふうに心配をしてる。今回見てきた民間による生産性なり、収益を上げるということをもう少し比重を上げていかないと近い将来のニーズにはなかなか追いついていかないのではと心配している。その辺のところを視野に入れて検討しているかどうかだけ課長の考えがあれば伺いたい。

○社会福祉課長 確かに親亡き後ということはもう常々言われている問題でそういうところはこちらとしても考えてはいるところである。私の部署では生活保護や生活困窮者の自立支援制度、困窮に対しての対策を打てる部署でもあるので、そういうところとも連携しながら障害者の方が自分の年金や工賃で自立できればそれが一番いいことだと思うのでそういうところも含めて今後も研究検討していきたいと思う。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 次に、調査事項2「(株) ありがとうファームの事業で沼田市に活かせる内容について」質疑を行う。質疑はあるか。高柳委員。

○高柳委員 民間がやる福祉、障害者福祉ということでタイトルでびっくりして調査をしましょうということで提案したわけだが、その中でもアートが中心だったわけである。他の飲食や何かというのは全国的にもたくさんあって、いろいろ先進地を見たが、絵を売ったり貸したりしてA型になっているのを初めて見たわけである。この地域であるとか群馬県全体の総体で見ると、アートというのは本当にそういう方々が努力して作ったから買ってやってくれ、見てやってくれである。だがあそこのものはもう間違いなくどんな方が見てもこれはいいよというものを作って、そして適正な価格でリースをしたり、買っていたりということに特化している。そこが特徴だと思っている。話が飛んでしまうが、2年くらい前に特別支援学校で就労支援をする会議にオブザーバーで出させてもらったが、そこでもやはりアートが出る。だから事業者の希望でアートというのは結構なウエイトを

占めている。それでもやはり売するというよりは、自己表現で終わっているところが多い。だからやはりこういう目的を持って作りましょうというふうにしないと、やっていることが高等学校になれば就職を頭に入れた学校であると思うので、そういったところからこういう考え方を取り入れてやっていかないと私が書く絵と同じようなものになってしまう。それでリースはできないだろうというふうには思ってしまうので、あらゆるところで商品として出すというところを考えないと駄目なのかなと。これもさっきと似ているが、居心地のよさを優先すると商品性がやや落ちてもいいかなとなるけれども、経済性を求めようとすると言ったところが多少入らないとなかなか本人の経済的な側面を支援することになかなかならないというふうに思っている。それでさっきと同じかもしれないが商品売るということに少し視点を当ててそれぞれの施設、事業所と付き合っていくというのはどのように考えているのか。同じような質問になるかと思うが、課長の考えがあれば伺いたいと思う。

○社会福祉課長 まず、支援学校ということになってしまうと所管が違ってしまいが、事業所の中でもソナタリユーがアートに力を入れている。前橋のスズランで展示の即売会みたいなものを行ったりしていて、群馬県でも珍しいと思う。そういう取組を沼田市の1事業所が行っているというところで、市としてもそういうものを紹介する、市民の人に知ってもらおうというような取組を考えており、現に今3階の待合のところのスペースで、障害者アートを飾る場所を設けているのでそういう取組を進めていって事業所も、そういうところから商売に結びつけられるように考えていただければと。あとは利根沼田の自立支援協議会という事業者が入る協議会があるので障害者アートについては議題にも出てくるので、そういう中で、例えば今回行ったありがとうファームやヘラルボニー、そういうところは多分承知はしていると思うがそういう情報も提供しながら事業所にも考えていただきたいというふうに思っている。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

次に、調査事項3「今の人口を維持するという観点から、人口減少対策としての自殺予防について」質疑を行う。質疑はあるか。高柳委員。

高柳委員 自殺予防対策の条例を市で作ったときに5年くらい前で、群馬県で自殺率が一番高かった。そのときにいろいろ私も意見をして、この結果を今課長から聞いたが理由はあまりはっきりと釈然としないというのが当時の答弁でもあったが、やはりデータで改めて見ると40代の方は経済問題、60代、70代の方は健康問題が原因というのははっきりしてくるわけである。健康問題、経済問題をできるだけ解決しない限りは、社会福祉課や健康課で一生懸命単独でやろうとしても私はこれは難しい問題というふうに思っている。当該の社会福祉課としては、どのようなことが効果的と考えているのか伺えればと思う。

○社会福祉課長 自殺に関しての経済的なもの健康的なものというところであるが、今回のデータはクロスしている部分がはっきりはしていないので、明確に40代が経済的か、高齢者が健康的かは分からないが、いずれにしても経済的なものに関して言えば、やはり先ほども申し上げたが生活困窮者の自立支援制度、生活保護の制度、そういうものもあるという周知をしていかなければならないと思っている。いろいろなところの取組を見るとやはりネットワークとか、そういう相談窓口を重要視しているので、今沼田市も横の各課の

つながりというのは比較的できている。例えば生活保護で申し上げると、負債があるという事で消費生活センターからつながれてくるとか、滞納があるからということで税務課からつながれてくるとか、そういうつながりというのができているので、そういうところで相談を受けることでこういう自ら命を絶つということが少なくなるようなそういう取組をしていきたいと思っている。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 なければ以上で社会福祉課を終了する。

次に、こども課の所管に係る事項について説明願う。こども課長。

(阿部こども課長 説明)

イ こども課

・調査事項

1 今の人口を維持するという観点から、人口減少対策としての自殺予防について

【人口減少対策】

2 子育て支援について【人口減少対策】

○こども課長 調査事項1「今の人口を維持するという観点から、人口減少対策としての自殺予防について」説明する。こども課では、全ての妊産婦、子育て世帯、子供に対し、出産前から子育て期にかかる切れ目のない支援を行うための相談窓口として、こども家庭センターを設置している。自殺の背景には、孤立、貧困、育児不安、虐待など、様々な問題があり、自ら命を絶つような状況になる前に支援が行えるよう、日頃から学校や保育園、医療機関等の関係機関と連携し、支援が必要な子供や家庭の早期発見に努めている。また、孤立した子育てを防止し、虐待リスクの高まりを防ぐため、妊娠届時には妊婦の方と直接面談を行い、心身の状況、家庭環境等の把握を行うほか、子育てに関する情報提供、相談等を行い、出産後には家庭を訪問して継続してつながりを持ち、気軽に相談できる環境や関係性を構築するよう努めている。

次に、調査事項2「子育て支援について」であるが、人口減少対策としての子育て支援としては、子育て世帯の経済的負担の軽減や、子育てしやすい環境整備等が考えられるが、こども課としては、チャイルドシート購入補助金や、将来に向けた少子化対策につながるものとする結婚新生活支援補助金を交付している。保育料については、国の基準より低く設定し、第3子以降の保育料を無償化するなど、子育て支援に取り組んでいる。完全無償化については、市の財政状況等を含め、市全体の事業の中で検討するものと考えている。環境整備については、子育て支援センター、学童クラブ、ファミリーサポートセンター、病児保育室など、今ある施設の充実に努め、また、こども家庭センターによる相談体制を強化し、安心して子育てができる環境づくりに努めていきたいと考えている。

説明は以上である。

○委員長 説明が終わった。

報告事項1「今の人口を維持するという観点から、人口減少対策としての自殺予防について」質疑を行う。質疑はあるか。今成委員。

○今成委員 先ほど安原課長から自殺者数というのも年々減っている傾向ということでこちらの相談件数なども減っている傾向にあるが、不登校と性格行動相談が令和5年度より令和6年度が増えている。これは学校現場でのいじめやそういう細かい相談、こども家庭センターの相談窓口におけるいじめやその細かい理由というのは、件数の調査はされているのか。

○こども課長 不登校の相談については、基本的には教育委員会で対応しているが、要保護児童対策地域協議会等でケースとして挙がっている家庭やこども課に直接、最初に相談に見えた場合に、不登校に関する相談を受けてケースとして取り扱っていくような状況にはなっている。もちろん学校教育課からの情報提供により不登校に関わる問題が、学校の内部のことだけではなく、家庭に関わるようなことが生じた場合には、教育委員会と一緒に家庭と面談をしたりして対応させていただいているところである。

○今成委員 成人相談であるが、この自立支援について詳しく教えていただきたい。

○こども課長 自立支援という相談に関しては、こども課でひとり親家庭の方に高等職業訓練給付金や自立支援の給付金を給付している制度がある。そういった申請に見えたときに、その家庭の状況を把握させていただいたりという相談を行わせていただいているのでそこからの相談が多いかと思う。

○委員長 ほかに。副委員長。

○副委員長 例年、実数に対して相談回数というのが多いから、多分1人の方に対して何回もフォローされている、相談に応じているというふうと思うが、そういった相談を単年度の中で例えば10人の方が来て50回相談をして、その10人のうち3人は解決をしたとか、そういう解決というか、大体年間何件くらいか教えていただければと思う。

○こども課長 解決したケースが何件くらいあるかというのは、今現在数字としては持ってはいないが、やはり解決するまでには1年という短いスタンスで解決していくというものよりは、やはり毎年度毎年度、関わり合いを持ってお子さんが18歳になるまで、こども家庭センターで継続して見ていくということが、ケースとしては多いとは思う。もちろん相談のケースがあまり重篤でない重いものでないケースについては、関係機関と連携して、その後の相談をお願いするといった場合もある。数字として持ち合わせていなくて申し訳ないがそのような状況になっている。

○副委員長 なかなか単年度で簡単に解決するのはそれはそれで結構であるが、なかなかそういうわけにはいかない気がするので、やはり継続的なスパンで対応していく必要があるのだというふうと思う。やはりまだ相談に来てくれる方はいいと思うが、なかなか相談に来てくれない、なかなか行政としてそういう問題を抱えている人を把握するというのは非常に難しいと思うが、その地域からの相談というか、御近所さんからここにはちょっと虐待ではないかと恐れがあるよというような、そういう地域からの通報は年間何件かあるのか。

○こども課長 こども課に地域からの相談というか通報そういったものがあるのかどうかということであるが、もちろん年間に数は多くはないが通報はある。虐待というよりも、その家庭の状況が心配だというような内容の相談が最近は多いかと思う。やはりこども課としても相談していただきやすい状況をつくっていきたいと考えているので、学校、保育園、関係する機関に周知をして、こども家庭センターで相談に乗りますよということで、

啓発活動は今後も推進していきたいと考えている。

○副委員長 地域との連携をやはりこれから強めていくというか、当然学校や保育園、そういったところともそうなのだが、やはり民生委員とか地域に班長がいて近所のことをよく御存知であるから、そういう方にも何かあったらこども課に連絡してほしいというようなことを徹底していく、国も別に空振りというか問題がなくてもいいから何でも心配事があったら通報をしてくれということを言っているので、やはり多くの人の目で見えていただいて、問題を早期に発見をして対応していくという意味では民生委員や地域の区の中でそういうことも目配せをしてもらえるような広報もこれから必要というふうに感じるが、そういった地域との連携に向けて何らかの検討がされているのであれば最後に聞かせていただければと思う。

○こども課長 民生委員と地域の方にそういった広報ということであるが、民生委員の会議の中で、こども家庭センターの職員が会議の中に赴き、虐待に関する説明やこども家庭センターを設置した説明をさせていただき時間をいただき周知をしている。今後もそういった活動については続けていきたいと考えている。

○委員長 ほかに。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長 次に、調査事項２「子育て支援について」質疑を行う。質疑はあるか。副委員長。

○副委員長 一つには経済的負担を軽減するということで、保育料や副食費の無償化ということでは言っているがなかなか財政的な関係で難しいという答弁を毎回いただいているが、例えば渋川市は保育料も無償化をしているが、財源といえば単独でやっているわけであるが市全体の運営の中で子育て支援の経済的負担をなくす、保育料無償化にするというようなことでどのように財源を確保しているのか調査研究なり、聞き取り、そういうことはされたことはあるのか。

○こども課長 保育料の無償化の関係については、毎年度どのくらいかかるかというのはこども課で試算をさせていただいているので、それをもとに検討研究をしていきたいというふうには考えている。

○副委員長 例えば片品村であると１人目は保育料がかかって２人目以降は無償にしている。市でも３人目以降は無償になっているから２人目以降無償化すればどれくらいかかるかということについては多分試算はされていると思うが、問題はそこから先だと思う。要するに、それをやるためにこれだけかかりますよ、１億円かかりますそのための財源をどうやって確保するのかということは、やはり財政担当とよく協議をしてもらうことが必要だと思うが、やはりこれからの人口減少対策の一つとして大きな対策として、積極的に財政当局にも働きかけていく必要があると思うが、担当課として財政担当との折衝というか交渉についてはどのように臨んでいく考えなのか。あれば聞かせていただければと思う。

○こども課長 やはりこども課だけでは財政面については考えることができないので、財政当局等とも市全体として考えていかなければいけないことだと思っているので今後も研究させていただきたいと思う。

○委員長 ほかに。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長 なければ以上でこども課を終了する。

次に、健康課の所管に係る事項について説明願う。健康課長。

(鈴木健康課長 説明)

ウ 健康課

・調査事項

- 1 今の人口を維持するという観点から、人口減少対策としての自殺予防について
- 2 周産期医療・小児医療の充実について

○健康課長 調査事項1「今の人口を維持するという観点から、人口減少対策としての自殺予防について」説明する。健康課が実施する各種健康教室等において、十分な睡眠やストレス解消で、心身の疲労を回復し、心の健康を保つことを勧めているところである。また、保健推進員の活動においては、活動テーマの一つに心の絆運動を掲げており、今年度の総会後の講演会では、社会福祉課保健師を講師に迎え、自殺予防ゲートキーパー講習を実施し、地域の健康と安全を見守る役を担っていただいている。また、妊産婦においては、産婦健診や訪問指導時に、エジンバラ産後うつ病問診を実施し、面談や問診でハイリスクな要因があれば、産後うつ病に早期に対応するとともに、個別に継続的な支援を行っているところである。今後においても、心身の健康を保持していただけるよう、啓発と支援を行ってまいりたいと考えている。

次に、調査事項2「周産期医療・小児医療の充実について」であるが、現在、沼田医療圏において、周産期医療は利根中央病院のみで対応し、小児科は17医療機関が標榜し、小児初期医療に対応している。小児二次医療としては、利根中央病院が北毛地区二次救急の輪番病院として対応している。周産期医療及び小児医療の充実は、沼田医療圏だけではなく、全国的な課題であると認識しているが、本市においても、県が開催する「北毛圏域周産期・小児救急等医療提供体制の確保に関する検討会議」に出席し、地域の状況を伝え、小児科医及び産婦人科医の派遣増を要望しているところである。

また、周産期医療体制の確保としては、利根沼田広域市町村圏振興整備組合において、周産期医療維持費補助事業として、令和5年度から、常時分娩を取り扱う病院等のうち産科医師を雇用する病院に対して補助金を交付しており、市も負担金を支出している。今後も引き続き、国、県、関係機関に働きかけていきたいと考えている。

最後に、10月29日に開催された「利根沼田地域保健医療対策協議会」の開催結果を群馬県からいただくことができたので、委員の皆様にお配りさせていただいた。この件についての御質疑は御容赦いただければと思う。

○委員長 説明が終わった。

調査事項1「今の人口を維持するという観点から、人口減少対策としての自殺予防について」質疑を行う。質疑はあるか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 次に、調査事項2「周産期医療・小児医療の充実について」質疑を行う。質疑はあるか。副委員長。

○副委員長 全国的に医者不足、その中でも小児科、産婦人科医師というのは特になり手

が少ないと言われてる中で、やはり長期的に医師を確保していくということがこれからも必要ではないかということで、そういう長期的、これから先もずっと産婦人科、小児科の医師を確保できるような対策を病院や診療個人開業医の先生、医師会なども含めて協議をしていく、対策していくことが必要であるが、医療機関や医師会と今後そういう小児科、産婦人科の医師の確保に向けて協議をされていくということで理解をしてよろしいのかどうか、まず聞かせていただければと思う。

○健康課長 医師確保については、沼田病院の関係もあることから沼田圏域が引き続き医療提供体制が確保できるように、それについては要望していきたいと考えている。

○副委員長 これからも多分、産婦人科と小児科の成り手が少ない気がするので、大変難しい課題だと思うが、学生のと時から利根沼田で医学部に進学した人、産婦人科や小児科を希望しているような人を早くに見つけながら、医師確保に向けて取組とかそれはいろいろやり方があると思う。ぜひ検討していただければと思う。それから小児科医師の確保についてであるが、旧北橘村にあった県立小児医療センターが、前橋に行くということで、ある意味北毛の吾妻を含めて、渋川以北の小児科の2次救急についてはもう利根中央病院だけが担うことになることから、やはり医師確保というのは非常に大事な課題になっている。産婦人科医師を確保するには財政支援を行っているので、小児科の医師の確保に向けても、そういう財政的な支援を行うということが今後必要になってくるのではないかとと思うが、その辺の検討に向けては何らかされていくのかどうか。聞かせていただければと思う。

○健康課長 小児科医師の関係補助であるが、その辺については本市にとどまらず、沼田医療圏としての課題と思われるので、利根沼田広域市町村圏振興整備組合と連携しながら引き続き研究していきたいと考えている。

○副委員長 産婦人科医師の確保も広域圏で対応されているので、それと同じような仕組みで対応していただければいいと思う。答弁は結構である。重ねて要望しておきたいと思うのでよろしく願います。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 なければ以上でこども課を終了する。

(4) 今後の日程について

○委員長 次に、次第(4)今後の日程について、ア 次回の委員会について、事務局に説明させる。

(事務局書記 説明)

○委員長 説明が終わった。次回の委員会については、事務局の説明のとおりでよろしいか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○委員長 事務局の提案のとおりとする。以上で健康福祉部各課の所管事項報告・調査事項説明を終わる。

(健康福祉部 退室)

(2) 市民部各課の所管事項報告・調査事項説明

○委員長 それでは、次第（２）市民部各課の所管事項報告・調査事項説明を行う。

環境課の所管に係る事項について説明願う。環境課長。

(栞原環境課長 説明)

ア 環境課

・ 調査事項

1 新ごみ処理施設整備基本計画（素案）に関する説明会の状況について

○環境課長 調査事項１「新ごみ処理施設整備基本計画（素案）に関する説明会の状況について」説明する。資料２ページを御覧いただきたい。

利根沼田広域市町村圏振興整備組合により、新ごみ処理場施設建設に向けた施設整備基本計画（素案）について、５市町村で７回説明会が実施され、そのうち沼田市内では合わせて３回実施された。まず、９月２９日には薄根地区振興協議会及び薄根地区区長会を対象に実施され、次いで９月３０日に薄根地区住民、１０月３日に市内全域の方に対し実施され、３日間合わせて６１名の方に御出席いただいた。沼田市での説明会にかかる出席者は、利根沼田広域市町村圏振興整備組合から理事長の星野市長ほか各理事として各町村長、事務方として事務局長以下一般廃棄物処理推進室の職員、市から副市長、根岸市民部長と私である。

説明事項については、現沼田市外二箇村清掃施設組合清掃工場の敷地が候補地となった経緯、新ごみ処理施設整備に向けた地質調査結果、新ごみ処理施設周辺における生活環境影響調査結果、新ごみ処理施設整備基本計画（素案）であった。

主な質疑等については、候補地について、施設整備について、搬入道路についてなどが寄せられた。概要は資料５ページ以降に記載した。

説明は以上である。

○委員長 説明が終わった。

調査事項１「新ごみ処理施設整備基本計画（素案）に関する説明会の状況について」質疑を行う。質疑はあるか。高柳委員。

○高柳委員 私はどこにも参加できなかったが、御意見をまとめていただいたのを読んでみて、ここでいいですよという御意見が強かったのか、いややっぱりこの課題をクリアするのは大変なので、見直したほうがいいのかという方が多かったのか、率直な御意見、感想を聞かせていただければと思う。

○環境課長 市で行われた３回に出席して、絶対にここでは駄目だという意見はほとんどなかったと思う。

○高柳委員 現地の生活環境影響調査をして計画書のところを読むと、４か所地点を決めてそこで測ったということが書いてあった。そこは約中心点から１キロメートルくらいのところが東西南北４か所というふうになっていると思う。この結果を見ると平成十年かの

とおりのところでこうやったのを参考にその地点をサンプルにとったと。こういう概要だったというふうに理解しているが、風が吹いていないほうが少ないわけである。基本的には、風が吹いている日の方が圧倒的に多いわけで、風が吹いてときの状況というのは、その生活環境影響調査の中で、いろいろ調べたのかどうか伺いたいと思う。

○環境課長 生活環境影響調査の詳細な内容については本日持ち合わせていない。説明会のことというふうに聞いていたので、その内容で用意した。申し訳ない。

○高柳委員 ないものはいい。

○委員長 ほかに。今成委員。

○今成委員 テラス沼田の説明会で傍聴させていただいたが、確か搬入道路の件で市民からの質疑で拡幅をするのかと、季節によっては軽トラックが止まったりで幅5.1メートルは狭いのではないかと、拡幅してほしいと。質疑の中で、確か副市長が拡幅は搬入道路に関して今のところ整備や拡幅というのは考えていないという返答だった記憶があるがその辺を詳しく議事録か会議録か何かあれば教えてもらいたい。

○環境課長 資料13ページの質疑の概要のところ、2番のところになると思うが、市道幹道線いわゆる下沼田農道の整備や拡幅についてはどうなっているかという質問に対して、これは副市長だったと思うが路面整備は当然考えていて拡幅の必要性も認識しているが地権者との交渉もあるためはっきりとお約束することはできない。地域の交通安全を考えた対応を進めていくという回答をさせていただいている。現状では、それ以上でもそれ以下でもなく、まさにこの回答としか私どもも、その後承知をしていないのでこれで回答になっているかと思う。

○今成委員 その後この搬入道路の拡幅や整備の関係の話という進捗状況はこのままというところで進展はなしでいいか。

○環境課長 はい。

○今成委員 分かった。

○委員長 ほかに。副委員長。

○副委員長 搬入道路の問題であるが、現時点では地権者との交渉やそういうことが入っていないわけだが、やはりそこをはっきりさせないと地域の方々の納得は得られないのではないかと思う。だからある意味、何が何でも別のルートで今搬入しているところとは違う別のルートで道路を拡幅して安全にごみを搬入させるということをちゃんと住民の方々に責任をもって説明していかないと理解は得られないと。やはりその辺の対策というか対応はどのようにされていくのか聞かせていただきたい。あとは煙の問題を心配されている特に柳町、高台の方々そういったことに対して不安を感じている方々の不安を解消する、煙突の高さも含めて、早急に示していかないと、なかなかいつまでたっても十分な理解や合意は得られないと思う。今後の対応としてこれから検討するというだけではまずいのではないかと思うがどういう考えなのか聞かせていただければと思う。

○環境課長 地権者の同意が得られないと進まないというところで、拡幅などについても説明会の中でも大変たくさん御意見をいただいていたところであるが、説明会の中で利根沼田広域市町村圏振興整備組合及び副市長が回答した内容が今のところ全てであり、そこから先にまだ進んでいないのが実情である。ここで、私が何かを申し上げることは立場が違うので控えさせていただければと思う。

○副委員長 よく分かった。ただそういう不安が出ている限りは、それをどういうふうにするんだということをはっきり言っていない限りは、なかなか住民の方々の理解や協力は得られないと思う。だからある意味もう何が何でも拡幅をしますぐらいの決意を持って臨んでいかないと、その煙突の問題もそうであるし、とにかく不安に感じているものを消し去っていくそういうことでやりますからというような姿勢を示していないと。これからだって言っているうちは、絶対不安というのとはならないと思う。だからその辺はよく市長をはじめ利根沼田広域市町村圏振興整備組合には伝えて、やはり責任ある対応、解決策を示していくということを早急にやっていく必要があると思う。そういうことをぜひ強く市長をはじめ利根沼田広域市町村圏振興整備組合に伝えていただきたいと思うが。

○環境課長 私も説明会に出席させていただいて住民の方々から強い熱い思い、要望をいただいていることを出席して伺っている。もちろん意見もそうであるし、構成市町村の職員の皆さんもまた町村長の皆さんも聞いてくださっていると思う。また本日たくさん御意見をいただいていることも改めて利根沼田広域市町村圏振興整備組合に伝え、つないでいこうと考えている。

○副委員長 そうしていただければと思う。

○委員長 私からいいか。

○副委員長 進行を交代する。委員長。

○委員長 今話題に上っている市道幹道線の場所の確認をもう一度しておきたい。沼田市内から降りてきて寺久保橋を渡り、そして少し進んでからガードレールがあって左に曲がり、左右に田んぼが続いている、そのことを今話しているとそういう理解でよろしいか。そこを広げるかどうか、答弁があったとおりでということでもいいか。

○環境課長 はい。

○委員長 分かった。ほかに。山宮委員。

○山宮委員 沼田市側から要求として上げてもらいたい質疑であるが、今の環境性能、現状の焼却炉に対して測定をしているが、新焼却炉の処理場の設計基準、標準仕様であるとか、こういう設計を進めてこういう焼却炉を検討しているという新しい施設の性能的なものを表に出して、今の性能はこれだが、よくなってこうですよ、さらに高性能であると新しいもののデータを示せば、結構皆さん納得してくれると思う。今の測定結果で、大丈夫です大丈夫ですとなかなかちょっと説得力がないと思うので、それに対して新しい施設はこうだと出したほうがいいと思う。その辺を市で検討していただいて、利根沼田広域市町村圏振興整備組合に提案していただきたい。

○環境課長 新しい施設の設計等に照らし合わせて、現状のものと比較するということの御意見だと思うが、今の段階では、新施設の設計も合わせてまとめてかけるということなので仕様の詳細はまだ決まっていないようなので、ある程度固まって、見えたところで、それは可能になるかと思うので、利根沼田広域市町村圏振興整備組合にも話をしてそれが比較できる段階になったらしてもらえるように、御意見もあったということをつなぎたいと思う。

○山宮委員 現状を聞いても正直住民の人たちは現状今も大丈夫なんだ、でも新しく造るものはどうなのかが一番気になっているところだと思うので、そこは環境性能的にもう全然クリアだよと。煙はもちろん出ませんよとか、臭いも出ませんよ、こういう装置がつい

て出ませんよと、新しい施設のデータの的なものを出す、設計仕様である。こういう設計で利根沼田広域市町村圏振興整備組合はやってますよと、こういった性能の今の現状のデータよりいいものの設計で業者を選定する、プラント屋さんを決定する、というところをやはり表に出していったほうが一番いいと思うので、答弁は結構なのでぜひ利根沼田広域市町村圏振興整備組合に提言してもらえればと思う。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 なければ以上で環境課を終了する。ここで、環境課長から追加説明がある。

○環境課長 先月の委員会で沼田市環境基本計画の概要版についてお示ししたが、もうちょっと見やすくしたらどうかという意見があり、中身のレイアウトを文章中心だったものをイラスト中心に変え、多少レイアウトを変更させていただいた。先月説明したものとは変更があったのでお詫びする。今月の広報に織り込んで配布を進めさせていただいている。

○委員長 ただいま環境課長から文字だけだったものから、ピクトグラムのようなイラストで、一見して分かるように改善されたという報告をいただいたので御承知おきいただきたい。

(4) 今後の日程について

○委員長 次に、次第(4)今後の日程について、ア 次回の委員会について、事務局に説明させる。

(事務局書記 説明)

○委員長 説明が終わった。次回の委員会については、事務局の説明のとおりでよろしいか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○委員長 事務局の提案のとおりとする。以上で市民部各課の所管事項報告を終わる。

(市民部 退室)

○委員長 休憩する。

(休憩 午後2時45分から午後2時49分まで)

○委員長 休憩前に引き続き、会議を再開する。

(3) 市民部及び健康福祉部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換

○委員長 それでは、次第(3)市民部及び健康福祉部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換を行う。まず、通常の市民部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換を行う。発言はあるか。副委員長。

○副委員長 市民協働課で市民協働を推進していくに当ってどういう考えで進めていくのかということと、現状はどうなっているのか。協議会などを開いてはいるようだが、なかなか具体的にこういうことをするというのがそれぞれの地区で見えてこない。運動会と一

緒に防災訓練をやった話は聞こえているが、各地区での取組状況と併せて今後市民協働をどう推進していくのかということについて聞きたい。

○委員長 市民協働課で行っている各地域、7地区の中でやっている現状と、それから推進についてどう考えているのかという内容でよろしいか。

○副委員長 もっとほかのいろいろな事業も取り組みながらさらに市民協働を進めていくというような考えを持っているのか、そういうことについて検討しているのかどうかを聞きたい。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 以上で通常の市民部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換を終了する。

次に、通常の健康福祉部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換を行う。発言はあるか。高柳委員。

○高柳委員 前に一般質問もしたが、お互いさまのまちづくりについて、地域は高齢者福祉に特化したものではなくて、障害者も、それから子育て支援も含めたところのその地域のよりどころや地域活動についての新たな構造展開というのは重層的支援体制整備事業に変わっている。みなかみ町はもう既に実践済で沼田市はそれに向けてどんなことを今されているのか。議論の状況を聞かせてもらいたい。沼田市もつくったという認識であるが、どういうふうに展開しているのか見えないので。

○委員長 重層的支援体制整備事業の内容と進捗状況、今の状況、現状を聞かせてもらうということか。調査事項について事務局に確認させる。

(事務局書記 確認)

○委員長 説明のとおり、今回の通常の調査事項は2件としたいと思う。

次に、人口減少対策に特化した調査事項について意見交換を行う。事務局から資料について説明させる。

(事務局書記 説明)

○委員長 説明が終わった。人口減少対策に特化した調査事項について、意見はあるか。副委員長。

○副委員長 12月に2件、調査事項とすることでよいと思う。

○委員長 高柳委員。

○高柳委員 問題提起してくれているから、そこを所管だからと聞いて何かありますかと言っても起案者でないと聞けない。それから所管課では答えられないものを委員会でやってもしょうがない。いい組立てになっていない。

(事務局長 補足説明)

○委員長 12月の調査事項を2件とし、それを私が常任委員長連絡会議でつなげる。よろしいか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○委員長 以上で人口減少対策に特化した調査事項についての意見交換を終了する。

(4) 今後の日程について

○委員長 次に、(4) 今後の日程について、イ 今後のスケジュールについて事務局に説明させる。

(事務局書記 説明)

(5) その他

○委員長 次第(6) その他について、委員から何かあるか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 それでは、行政調査について事務局から説明させる。

(事務局書記 説明)

○委員長 説明が終わった。高柳委員からくらぶちメロン村の提案があったが、視察するにあたり、日程について意見を伺いたい。意見はあるか。副委員長。

○副委員長 日程的に言うとかかなりハードになっているので、新年度早々に行けるように今から下調べし、そういう準備を重ねながら新年度早々に行ったほうがいいのではないかというふうに思う。

○委員長 ほかに。高柳委員。

○高柳委員 市長選もあるので5月くらいと感じている。時期は皆さんがいいところでちゃんとやってくればよい。

○委員長 ほかに。副委員長。

○副委員長 以前、山宮委員からミズノとの懇談の提案をしていただいた。できれば本社に行って話をしたらどうかという話も委員長とはしていた。そういうことも含めて、高柳委員の提案を5月以降にやるということを検討しながら、山宮委員が提案したミズノとの懇談も含めて十分まだ時間的に余裕があるので検討できる。

○委員長 ほかに。高柳委員。

○高柳委員 ミズノの検討資料を出していただいて。施設の予約一括システムについて調査できると思う。

○委員長 それでは新年度に調整し、行いたいと思う。以上で本日の委員会を終了する。

(午後3時23分 終了)